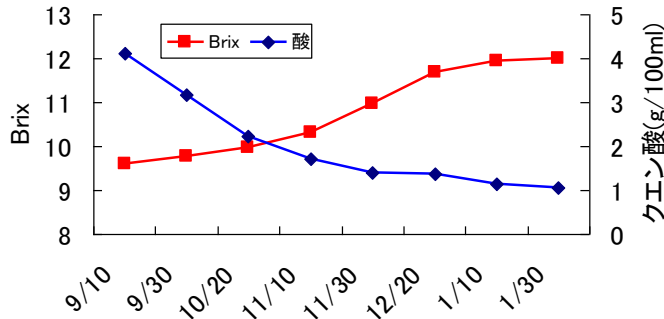


# 媛小春の安定生産対策

強樹勢のため着果がやや不安定で、高接ぎ4年目頃から結実し始め、樹が落ち着いてくると連年生産が可能となる。

## 果実品質



1月30日時点 糖度12 クエン酸1.0

## 結実管理



果頂部の奇形

- 果梗枝の太い上向き果
- 奇形果 を摘果する。

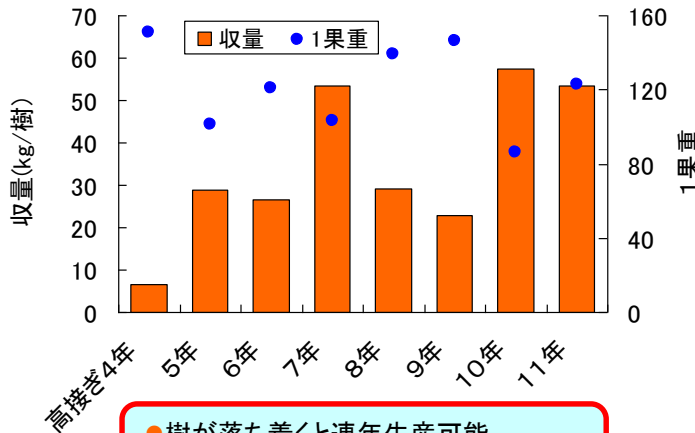
- 結果枝葉5枚以上の単生有葉果を主体に残す。
- 葉裏に着果多く、摘果は9月以降に行う。

## 栽培上の留意点



- 果頂部の奇形、ヤケ果、鳥害に注意。
- 収穫が遅くなると浮皮の発生が見られる。

## 収量・階級



- 樹が落ち着くと連年生産可能
- 果実の大きさは温州規格のL果中心

## 時期別糖度の目安

9月30日	9.8
11月10日	10.3
12月20日	11.7

➡ 1月30日に糖度12以上

## ヒリュウ(わい性)台木の利用



ヒリュウ台木はカラタチ台木に比べて①初期の結果性が良好②樹の生育は緩慢③浅根性で果実品質良好のため媛小春における適応性を検討中